



「みんなで作る男女共同参画社会」



これまでは、性別役割分業といって、家事や育児・介護等を主に女性が行い、男性は外で働くことが多くありましたが、それを見直し、家事・育児等は家族全員が分担し、個々の個性や能力を十分に発揮できる社会の実現が目指されています。私たちは男女共同参画社会実現のためになにができるのでしょうか？



3キロって結構重い。ずっと抱っこしてるのは大変！

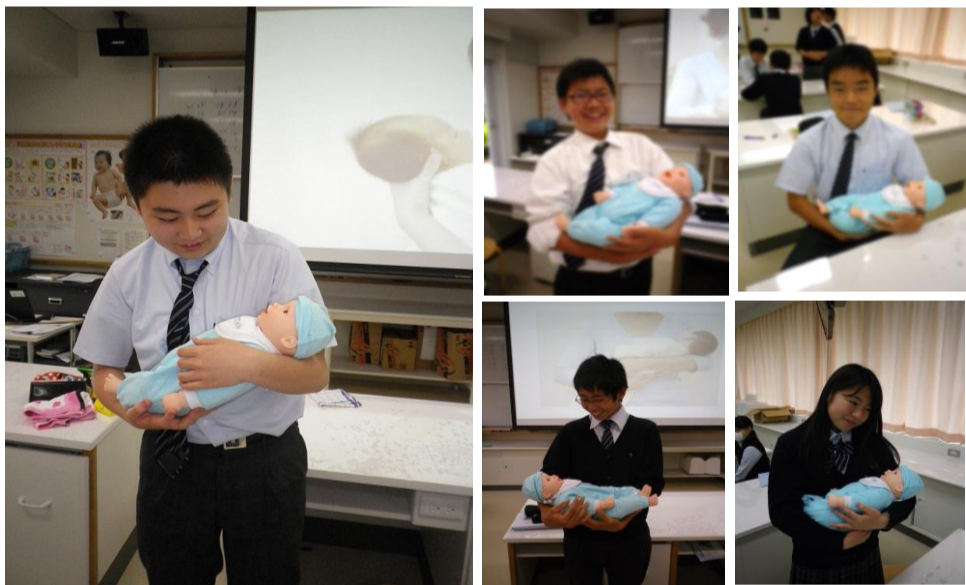
男女が互いを理解し尊重する意識をもつ

かつては家族の数も多く、祖父母などが育児を分担し、また地域全体で子どもが見守られていました。ところが現在、子育ては母親に負担がかかりがちです。日本では雇用者の約4割は女性で、その過半数が既婚者ですが、仕事を持つ子育て中の女性にはさらに大きな負担になっています。これからは父親が育児に参加し家事を分担するなどして、男女が協力して家族を築いていく必要があります。



↑抱っこの仕方を映像で確認中
みんな真剣に観ています。

<抱っこしたのはこちら>
右:新生児人形
左:塩、砂糖など3000g分



首のすわらない赤ちゃんを抱っこ

赤ちゃんに接したことがある人、接した経験がない人さまざまですが、今回は新生児人形と新生児と同等の重量のある赤ちゃん人形を使って抱っこにチャレンジ。生まれたての赤ちゃんはまだ首がぐらぐらするので、抱くときは手や腕で頭をしっかりと支えてあげる必要があります。みんなできたかな？



編集後記

皆さんは「イクメン」という言葉を知っていますか？
2010年、長妻昭労働大臣が少子化打開の一助として「イクメンという言葉が流行らせたい」と国会で発言し、男性の子育て参加や育児休暇取得促進などを目的とした「イクメンプロジェクト」を始動させたのをきっかけに浸透した言葉です。積極的に子育てを楽しみ、自らも成長する男性または将来そうありたいという男性もイクメンです。目指せイクメン！
「コトバンク」
<https://kotobank.jp/word/%E3%82%A4%E3%82%AF%E3%83%A1%E3%83%B3-188869> (2014/6/1アクセス)